

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：空知地区
- 2 事例報告学校名：浦臼町立浦臼小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 和 田 知 子
- 4 キーワード：地域の教育力を生かした特色ある教育課程の実践例

1 はじめに

浦臼町は空知地方の中央に位置し、東部の石狩川と西部の樺戸連山に挟まれ、数多くの川や沼が点在する広大な田園に包まれた自然豊かな町である。

本校は、明治30年に聖園尋常小学校として設立、昭和20年に浦臼小学校となった、平成7年に、浦臼小・鶴沼小・晩生内小の3校が統合し町内の小学校が1校となった。

今年度は、児童数64名、学級数9（通常学級6・特別支援学級3）となっている。町の唯一の小学校として、学校に対する地域の期待と関心も高く、大きな支援を受けながら教育活動に取り組んでいる。



2 地域の資源を生かした教育活動

浦臼町の歴史は古く、縄文時代の土器が出土し、アイヌがコタンで生活していたこともわかっている。江戸時代に近藤重蔵が探索し、松浦武四郎が訪れたという記録も残されている。明治時代に高知、徳島、長野県からの入植があり、坂本龍馬の子孫が浦臼で生活していたという歴史もある。浦臼の「歴史と農業の町」という地域資源を積極的に活用し教育活動を行っている。

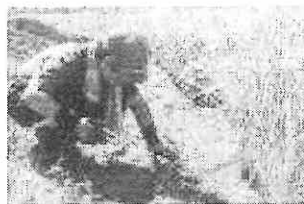
(1) 地域の産業を生かした活動

①お米づくり

3・4年生で「お米調べ隊・知らせ隊」（お米とアイヌ学習を隔年で実施）として、浦臼の農業の中心「稲作」についての学習を行っている。学校から徒歩3分の田んぼを地域の方からお借りし、田植え・観察・稲刈り・脱穀を行い、米づくりについて学んでいる。お米の種類、歴史、食べ方についての調べ学習も行い、学習したことをまとめ、学習発表会で発表している。



田植え体験



鎌を使って稲刈り



脱穀作業にも挑戦



学習発表会で発表

②野菜作り

浦臼は、野菜やメロンの栽培も盛んである。学校の学級園でも、トマト・エダマメ・ナス・ピーマン・ジャガイモ・サツマイモ・カボチャなど様々な野菜を栽培している。この学級園は、地域の方が耕したり、野菜の苗を提供してくれたりしている。子どもたちは、毎朝登校後に水やりを行い、休み時間や放課後には草とりをするなど熱心に野菜作りを行っている。6年生は浦臼町で作られて



登校したらすぐに学級園に



ミニトマトの乾燥野菜

ている「乾燥野菜」作りにも取り組み、農作物の加工についても学習している。

(2) 地域の特徴を生かした活動

6年生は修学旅行にあわせて、札幌地下歩行空間で「この町いいね！浦臼町PR大作戦」を行っている。町のPRのプレゼン資料を作成するために、資料館やインターネットなどで調べるだけでなく、町在住の専門家に話を聞くことで、浦臼の町についての理解を深めている。また、PR活動の一貫として、役場、教育委員会の協力を得て野菜やジュースなどの特産品の販売も行っている。浦臼町についてのアンケートを行い、たくさんの方に浦臼を知ってもらうだけでなく、今後の町の未来について考える学習へとつなげている。



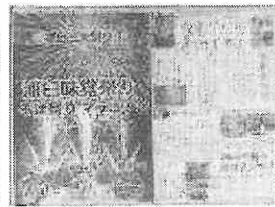
専門科から話を聞く



浦臼町PR活動



特産品の販売



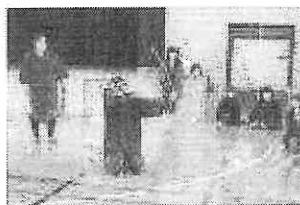
PR用ポスター

(3) 地域の歴史を生かした活動

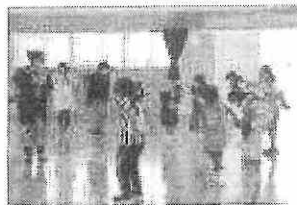
明治時代にはアイヌの人々と開拓者が共に過ごしていた歴史があり、北海道で最も大きなチャシ跡を含む四つのチャシ跡がある。この歴史を踏まえ、3・4年生が隔年でアイヌ民族学習を実施している。アイヌ文化財団の方を講師に迎え、アイヌ語やアイヌの暮らし、衣類や道具、行事について教えていただいたり、調べたことを学習発表会で発表したりしている。アイヌ文化についての理解を深めるだけでなく、学習の最後には「人権教育」を行っている。



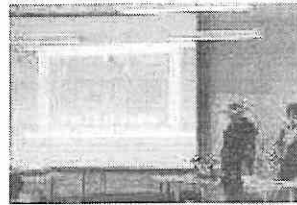
アイヌの暮らし



アイヌの遊び



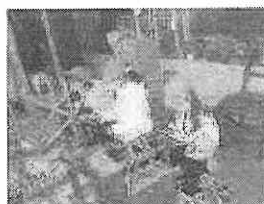
アイヌの踊り



人権教室

(4) 地域の施設を生かした活動

本校の隣には郷土資料館が設置されている。郷土資料館には「岩村男爵の農業開拓に関する資料」「坂本龍馬に関する資料」「チャシ跡の発掘資料」「開拓中期の資料」などが展示されている。知りたいことがあった時にすぐに行くことができるという恵まれた環境から、学習時間はもちろん、必要に応じて放課後に子どもたちが訪れ、自ら学びを深めている。



昔の農機具



町の歴史について

3 おわりに

浦臼町には高等学校がないため、子どもたちは中学校を卒業すると浦臼を離れ、高校での新しい生活を始めることとなる。人口が減少している本町では、地域も学校も一度町を離れた子どもたちがいつか浦臼に戻り、地域の担い手として成長してほしいという願いを強くもっている。学校は、今後も地域の協力を得ながら、町の教育資源を最大限に生かした教育活動を展開することで、ふるさとをよく知り、ふるさとを誇りに思い、積極的に地域に関わることのできる子どもを育成することを目指していきたい。